

事業実績書

1 事業名 体験と学びの地域共育みらいプロジェクト

2 実施期間 令和7年5月1日～令和8年2月28日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

本事業は、地域資源を活用した科学教育および環境教育を推進し、子どもから大人までが共に学ぶ「共育」の場を創出することを目的としています。竹ワークショップでは、放置竹林の管理や竹資源の活用を通じて、参加者が環境保全の重要性を学びながら実践できる機会を提供します。親子での里山体験の場を設けることで、自然への理解を深め、地域の環境保全活動への関心を高めることを目指します。

理界村小型版では、本校の中高生が主体となって地域の公民館で科学イベントを実施し、小学生に科学の楽しさを伝えます。実験や観察を通じて科学への興味を育むとともに、地域の学びの場を充実させることを目的とします。また、地域住民や教育機関との連携を深め、持続可能な運営体制を整えることを目指します。

② 事業の流れ等

① 竹ワークショップ

・ 目的

- 放置竹林の管理を通じた環境保全と、竹資源の活用を学ぶ機会の提供。
- 親子で自然体験をする場を確保し、里山の持続可能な活用と地域コミュニティの形成を促進。
- 中高生が地域資源を活かした探究活動を実践し、科学的思考力と課題解決能力を育む。

・ 内容

- 竹の間伐体験：放置竹林の手入れを行い、里山環境の維持管理の重要性を学ぶ。
- 竹細工・竹炭作り：竹を利用した工作や炭焼きを体験し、伝統的な竹資源活用の技術を学ぶ。
- 竹を使った食事：竹筒でご飯を炊くなど、竹の活用を身近に体験する。
- 探究学習活動：竹の特性を活かした実験や研究を中高生が企画し、参加者に科学的な視点を提供する。

・ 対象者

- 中高生、小学生、保護者、地域住民

・ 実施地域・会場

- 清心中学校・清心女子高等学校（竹林エリア含む）

・ 実施方法・頻度

- 月1回（年間12回開催）
- 定員を増やし、参加希望者をより多く受け入れるための運営拡充を検討

・ 協力

- おかやま森づくりサポートセンター、地域住民有志

② 理界村小型版

- 目的
 - 遠方の小学生にも「理界村」の学びを届けることで、地域間の教育格差を縮小。
 - 地域の公民館を活用し、科学教育の普及と地域住民の教育活動への参加を促進。
 - 中高生が科学教育の企画・運営に主体的に関わる機会を増やし、リーダーシップや説明力を養う。
- 内容
 - **理界村とは**
本校が実施する科学教育イベントであり、中高生が主体となって企画・運営する体験型の科学教室。小学生が実験や観察を通じて科学に興味を持ち、学びを深める機会を提供する。
 - **地域開催**：7月に実施した「理界村」の一部ブースを備中地区の公民館等で開催。
 - **科学実験ブース**：中高生が準備・運営し、小学生が実験を体験。
 - **ワークショップ**：地域の教育資源を活用し、理科実験を通じて科学的思考を促進。
 - **地域住民の関与**：地域住民がイベント運営に参加し、持続可能な科学教育の仕組みを構築。
 - **実験小冊子の配布**：理界村の案内をした小学校40校へ、15分でできる実験小冊子を配布。
- 対象者
 - 小学生、保護者、地域住民
- 実施地域・会場
 - 高梁総合文化会館、新見中央図書館、笠岡市民会館
- 実施方法・頻度
 - 年3回（各地域で1回開催）
- 協力
 - 高梁市教育委員会、新見市教育委員会、笠岡市教育委員会（後援）

③ 成果・効果

《今年度の事業による直接の結果》（アウトプット）及びその評価指標・評価方法
竹ワークショップ

評価指標	評価方法	目標	実績
参加者数	ワークショップごとの参加者集計	年間のべ1100名以上	のべ620名
リピート参加率	過去参加者の継続参加割合の集計	30%以上のリピート参加率	1月開催時：42%
ワークショップ実施回数	実施数の記録	年間12回	8回（助成対象外期間を入れて10回）

- 1学期、2学期の時期で目標の100名の参加者に到達しなかった。
- 安全面優先の考えのもと、天候、気候に配慮して中止回を設けた。
- 4月回および3月回は補助金対象外の企画として実施する。
- 8月回は猛暑のため中止した。
- 12月回は雨天のため中止した。
- リピート率が高いだけでなく、新規参加者もいるため、11月以降は申込時に100名を超え、参加人数の調整を行った。

理界村小型版

評価指標	評価方法	目標	実績
参加者数	開催地ごとの参加者集計	年間300名以上	小学生35名(全65名) 高粱7名(全11名) 新見11名(全19名) 笠岡17名(全35名)
ブース出展数	開催地ごとの出店数集計	年間のべ12ブース以上	2ブース×3会場＝6ブース
地域の教育機関・団体からの出展数	開催地ごとの出店数集計	年間6ブース以上	0ブース 笠岡市生涯学習課からの視察あり

- ・各自治体での小学生在籍数の把握を見誤っていたため、参加した小学生の数は目標を大きく下回った。在籍数から求めた参加者は各自治体 5%程度に当たり、これは倉敷市で開催した場合の参加割合より多い。
- ・対象学年を当初は4年生から6年生を想定していたが、在籍数が少ないことから1年生からと引き下げた。これを受けて、実験ブースでの説明を丁寧にするため、ブース数を各会場2ブースと変更した。
- ・地域大学のボランティアサークル等に打診を行ったが、良い回答は得られなかった。該当地域で「科学教室」自体の開催が無いことから、企画や負担感のイメージが伝わらないことから、ハードルが高かったと思われる。実績を積むことでハードルを下げていきたい。

《今年度に期待される成果》・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法

事業参加者

竹ワークショップ

評価指標	評価方法	目標	実績
里山体験の満足度	参加者アンケート	「親子で里山の魅力を感じられた」と回答した割合80%以上	100%
自然の恩恵の実感	参加者アンケート	「自然からの恵みを感じた」と回答した割合80%以上	100%
中高生の学び	中高生スタッフの振り返りレポート	「里山の有効性を実感した」と回答した割合80%以上	100%
子育て支援の効果	保護者アンケート	「スタッフの中高生を子どものロールモデルとして感じた」と回答した割合80%以上	87%

- ・高い満足度で実施することができ、期待に応えた企画となった。

理界村小型版

評価指標	評価方法	目標	実績
小学生の科学への関心向上	参加者アンケート	「科学に興味があった」と回答した割合80%以上	100%
参加団体の評価	参加団体アンケート	「企画・運営に参加しやすかった」と回答した割合80%以上	100% 視察評価 「参加しやすかった」 会場評価 「参加しやすかった」※当日欠席者との連絡手段を明確にしてほしい。
地域のブース出展意欲	公民館・団体へのヒアリング	「来年度もブースを出したい」との回答割合80%以上	33% 自治体主催のイベントに協力してほしい。
高校生のリーダーシップ向上	高校生スタッフの振り返りレポート	「企画・運営を通じて成長を実感した」と回答した割合80%以上	80%

・
い
ず

れの自治体教育委員会担当者からも「科学的なイベントは、行われていないため大変ありがたい。」とコメントをもらった。いずれの教育委員会からも後援および、全小学校へチラシ配布と実験小冊子の配布を引き受けてもらった。

・視察に参加した障害学習課担当の方からは、「限られた時間内に多くの実験を体験させられていて、今後ぜひ取り入れて行きたい」と、企画のパフォーマンスの高さを評価していただいた。

・当日欠席者の連絡が、使用会場へ直接入り、職員の方に何回も対応頂いた。欠席連絡の受け方を検討する必要がある。

事業実施団体

竹ワークショップ

評価指標	評価方法	目標	実績
運営スタッフの増加	新規運営メンバー	年間5名以上	地域より新規5名

・昨年度までの活動から、今年度の増員に繋がった。

理界村小型版

評価指標	評価方法	目標	実績
高校生の企画・運営スキル向上	高校生スタッフの振り返りレポート	「運営経験が成長につながった」と回答した割合80%以上	92%
地域のネットワーク強化	参加団体・自治体との協議回数	年3回以上	高梁：3回 新見：3回 笠岡：3回

・会場使用の注意点、チラシの配送方法の打ち合わせを行った。

竹ワークショップ

評価指標	評価方法	目標	実績
里山体験の提供	参加者アンケート	竹で遊ぶ、竹細工をする機会が増えた」と回答した割合80%以上	自由記載とした。以下参照。
竹の活用に対する関心	参加者アンケート	「竹を使った遊びや飾り作りをまた体験したい」と回答した割合80%以上	自由記載とした。以下参照。
竹林の管理状況	整備された竹林の面積記録	年間100m ² 以上	計測できず。

《アンケート自由記載より》

・竹炭の作り方や活用方法、竹食器作り、餅つき、鮮魚タッチ、味噌作り、本当にたくさんイベントを企画してくださり、ありがとうございました。どれもとても楽しかったのですが、娘は、食器作りが楽しかったと言っています。普段はなかなか使わない道具で、自分の食器を用意するのが貴重な体験となりました。家に帰ってからも、竹のお皿で食べていました。しばらく竹ブームが続きそうな予感です。私は、竹炭作りが楽しかったです。廃棄されてしまう竹を有効に活用し、昔から受け継がれてきた生活の知恵を現代に生かせる点が良かったです。竹はさまざまな活用方法があり、これからは新しい使い道が広がっていく可能性を感じました。先生はじめ、沢山のボランティアの方々や、生徒さん達が優しく教えてくださったので、楽しい時間を過ごす事ができました。今日は、雪が降る寒い日になりましたが、そんな事も忘れる程、子ども達も元気に体験できたことに、とても感謝しています。また色々な体験ができるのを楽しみにしています。

・竹を間近でみることはなく、さらにそれを自分たちで切って食器を作ることができ、とても楽しかったです。また、中々お餅つきをする機会がなく、子どもたちも初めてだったのでとても喜んでいました！出来立てのお餅をみんなと食べることができていい経験となりました。

理界村小型版

評価指標	評価方法	目標	実績
公民館活用の意識向上	公民館関係者ヒアリング	「今後も科学教育の場として活用したい」との回答割合100%	100% 3会場ともに「科学教室が実施されることがほとんど無いため、これからは是非活用してもらいたい」との解答。欠席者への対応方法など、前向きな課題提案も受けた。
参加団体の科学イベント継続意欲	参加団体ヒアリング	「今後も科学イベントを実施したい」との回答割合80%以上	視察：笠岡市教育委員会 これまでに類似のイベント開催がないので、続けてほしい。自治体主催のイベントに参加協力し欲しい。

・「科学教室が実施できていない」自治体が抱えられる共通の課題であることが明らかになった。ただし、在籍する小学生の数を想定すると、企画準備の負担が大きいことが想像できた。本事業で行ったように、準備された実験ブースを、各地域で小型版として実施する形態は、コストパフォーマンスが非常に高いことがわかった。

④ 今後の課題・展開等

竹ワークショップ

参加者の継続的な参加が見られ、地域内での定着の可能性を確認した。

一方で、安全管理や天候による実施制約があるため、実施体制の安定化が課題である。

- ・地域資源（竹林）を継続的に教育資源として活用する仕組みを強化する。
- ・地域スタッフの増加により、サポート体制を強化し、世代循環型の運営体制を構築する。
- ・参加費を見直し、持続可能な活動モデルへ発展させる。

理界村小型版

在籍児童数の規模から、大規模動員型の実施は現実的でないことが明らかとなった。

小規模であっても、質の高い体験を提供できることを確認した。

- ・小規模地域に適した科学教室の実施モデルとして再設計する。
- ・令和8年度より、笠岡市教育委員会生涯学習課主催事業へ協力出展が決定。
- ・自治体連携型へ移行し、広報課題を解消した持続可能な実施体制を構築する。
- ・将来的には、地域団体による主体的な科学教室運営へ段階的に移行する。

⑤ 県民局との連携による効果

- ・各自治体教育委員会への事業説明（特に課題感）が明確に伝わった。

4 参考事項・資料

①竹ワークショップの様子





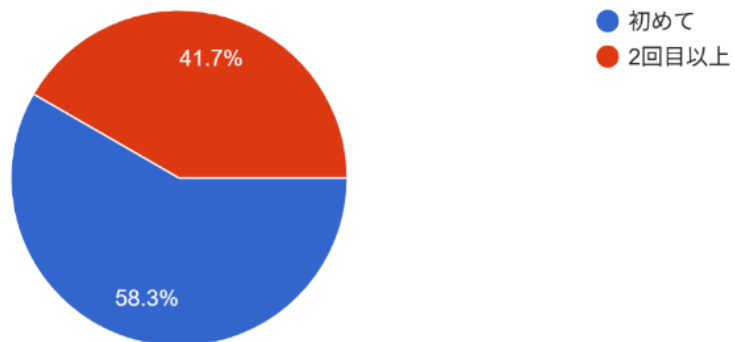
理界村小型版の様子



竹ワークショップ 1月25日 参加者保護者アンケート

竹ワークショップへの参加回数

12件の回答



本日のイベントの満足度（1～5、5が最大）を教えてください。

12件の回答

